
風の

羽木ヒン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風の

【Nコード】

N4311G

【作者名】

羽木ヒン

【あらすじ】

普通の話です。なかなか無駄な時間を作ってしまうでしょう。あらかじめお詫び申し上げます。

走る事は好きだ。

一人で走るのが好きだ。

たまに風の声を聞くような錯覚を感じる。

けど僕は今も昔も、きつと人と関わるのがあまり好きではない・

小学校では足なんかとても遅くて選手リレーなんて無縁のもので、しかし好奇心で立候補し大恥をかいたのを今でも覚えてる。

僕は今中学で陸上部に入った。まあそのおかげでなかなかの足を手に入れ、しかしまだまだ部でも真ん中より少し速くようやく色々口出しする先輩もいなくなり、今春僕は3年になった。そんな気の緩みからかどうかは定かではなく僕は学校が始まる日に大幅な遅刻をした。

まあ去年もなかなか遅刻日数の高記録保持者ではあったのだが、ここまでするとそろそろ遅刻選手権かなんやらのスカウトがきてもおかしくないと思う。

寝起きの悪さ以外はごく普通の学生であるつもりだ。自転車通学ぎりぎりのラインで惜しくも負けた僕は徒歩五分もかからないであろう学生が自転車で優優登校するのを恨めしく思いながらも、ほぼ毎日ダツシユで通学をしていた。これもなかなかの足を作った理由の一つであろう。

・・・とまあこんな説明らしき思考をめぐらしながら僕はいつもどつりダツシユで遅刻確定の事実を忘れるかのごとく登校している。起きれなかつたという理由で学校を休む奴もいるこの世界で僕はなかなかすごいのではと流石に疲労が溜まりおかしな考えを始めたと同時に学校が見え、我に帰りなんとかナルシストの一線を超えずにすんだ。

なお、クラスは毎年変わる。遅刻をしたからといって去年と同じクラスに入るほど僕は天然でもなくしつかりとクラス割を確認し・
・クラスへと向かった

一時間目はおそらく毎年何故か恒例の自己紹介と今年の抱負という意味もなくお互いを知り合わせるというまあ言わせてもらえば教師の自己満足の時間である

おそらくこのまま行くとちょうど先生の自己紹介が簡単に済まされていてそこから一人一人自己紹介が始まる時間だなあと思いながら、教室の扉の前に立ってそして一呼吸し扉を開けた・・・と同時に僕は今まで見たことのないそして今日からのクラスメイトらしき一人を見つけた。まあ教卓の横に立っている見知らぬ生徒に気がつかないほど緊張している訳ではなかったからな。髪はショートでポニーッシュな女子生徒であった。

「おい、日比。新学期始まって早々遅刻か」

と言う新担任・・・なんだっけ？・・・あっそうそう石井だ！

「すみません寝坊しました。」

その言葉の後にクラス内での笑いが一段落する頃合いに席に着席した。そして石井は再び転校生であろう見知らぬ生徒の自己紹介が始まった。

「どうも。今年から両親の都合で引越してきました山村千重です。よろしく願います。」

というありがちの自己紹介が終わったところで

「じゃあ、各自自己紹介してくれ。名前と今年の抱負をな」という石井の一言で出席番号順に始まった。

まあ自己紹介ついでにクラス内で仲の良い奴を探していたら仲町利羽ちりゅうを見つけた。こいつは小学校からの腐れ縁でありクラスも去年なかま

以外はずっと同じである。所属はバスケット部でありながら一週間の半分以上を陸上部で過ごしている変わり者のおそらく親友と呼べる奴で幸先が良く感じた。

僕もまあ陸上頑張るだとか県大会出場だとかのありがちな抱負を言った。そして最後にさつき抱負を聞きそびれたと言う理由によって転校生の山村が再び自己紹介した。

「先ほども自己紹介した山村千重です。今年の抱負はクラスに馴染むことです」

といったもので、正直がっかりした。その理由は最近どうも詰まらないと感じているからだ。

僕は正直学校だけではなく人生そのものに退屈を感じているのだ。

まあ自己紹介以外は各教科の簡単な説明や先生のおそらく興味を持たせるための自由な授業であった。まあ残念なことに成績が平均値を海面に例えるなら日本海溝の深部より4000メートルほど上であろう、つまり成績下位者であり授業に興味が持てなかった。

とまあこんなで放課後になり、なかなか部活に力を入れているこの学校は新入部員を確保するためか中には単に鍛えるためにやるかは知らんが、早速部活が始まる。

「日比、部活行こうぜ。」と初日から利羽は陸上部に行く気満々だった。

じゃあ入部しろよと言うツッコミを軽く流した利羽はやる気も満々らしく即座に部活に向かった。

ちなみに今現在の陸上部人数は新3年が男子3人（利羽は含まれない）、女子が5人で新2年は男子が1人と女子が5人と言うまあ

人気がない部である。

まあ正直人付き合いが苦手なので助かっている。

こうしてまた新しい一年が始まって行く。

あとがき

一応これで終わりでもうめっちゃ普通で呼んでくださった皆様の時間を人生のなかでも15の指には入るくらいの無駄時間を作ってしまったし申し訳ありません。

まあこれが初作品で構成もめちゃくちゃで

でもまあ書いていてなかなか楽しかったのでこれからも色々書きたいと思います。

あとがきを面白くと言うのが個人的な目標だったのでですが難しい！
まあここも工夫のしがいがあって楽しいところです。
でわでわ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4311g/>

風の

2011年1月27日11時54分発行